

認定調査票記入時に注意していただきたいこと

概況調査「Ⅲ 現在受けているサービスの状況」の記入方法

<在宅利用>

※必ずしもケアプランの確認の必要はありません。

- 調査時点において居宅サービスを利用している場合にチェックします。
- 介護サービスを暫定プランで受けている場合は、当該暫定プランが通常のプランと同等と考えられるのであれば、記載しても差し支えありません。
- 「認定調査を行った月のサービス利用回数」は、原則として当月の予定を記載します。未定の場合や通常の利用状況（予定）と異なる場合は、前月の実績を記載します。
- 訪問介護等について、サービスの提供時間の長短にかかわらず、月あたりの回数を記入します。
例）1日に5回・月30日利用→「月150回」
- 小規模多機能型居宅介護は、サービスの提供形態に関わらず、月あたりの利用日数を記入します。
- 福祉用具貸与について、同じ品目を複数貸与している場合は1品目とします。
- 住宅改修について、期間の設定はありません。
- 横浜市においては「市町村特別給付」はありません。
介護保険の法定メニュー以外は、すべて「介護保険給付以外の在宅サービス」となります。
ただし、完全な自費利用（私的契約）については、サービスには該当しません。

<施設利用>

- 調査時点において施設入所している場合に下表のようにチェックします。
(※在宅利用の欄にも記載が必要な施設もありますので、ご注意ください。)
- 本入所については、利用期間の長短にかかわらず<施設利用>と整理します。「短期入所生活（療養）介護」利用中については<在宅利用>にチェックします。
- 介護老人福祉施設入所者が一時的に医療入院している場合には、退院して施設に戻るまで調査を見合わせる事が通常ですが、やむを得ず入院中に調査を行う際は「医療機関（療養以外）」等にチェックします。

施設種類	介護保険施設（特養・老健療養型・介護医療院）	グループホーム	特定施設入居者生活介護適用施設であるケアハウス・軽費老人ホーム	地域密着型特定施設入居者生活介護	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	養護老人ホーム	有料老人ホーム（特定施設入居者生活介護適用施設）	特定施設入居者生活介護でない有料老人ホーム・ケアハウス・経費老人ホーム、サービス付高齢者向け住宅・障害者GH	医療機関
在宅利用		認知症対応型共同生活介護（日数）	特定施設入居者生活介護（日数）	地域密着型特定施設入居者生活介護（日数）	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（日数）	※居宅サービスを利用している場合は該当する項目	特定施設入居者生活介護（日数）	利用している居宅サービス	
施設利用	それぞれの施設にチェック	認知症対応型共同生活介護適用施設（グループホーム）	特定施設入居者生活介護適用施設（ケアハウス等）	特定施設入居者生活介護適用施設（ケアハウス等）	介護老人福祉施設	その他の施設	特定施設入居者生活介護適用施設（ケアハウス等）	その他の施設	医療機関（療養病床 or 療養病床以外）

※各ページ左上のコードを汚さないようお願いします

特記事項の記入方法

- 認定調査員テキスト2009を参照の上、評価軸に沿った記載をしてください。
- 「特記事項記入のポイント」を横浜市ホームページに掲載していますので、ご参照下さい。
- 「介護にかかる手間」を中心に記載を行ってください。
- 第2群の「移動」と「排泄」は、二次判定で「介護の手間にかかる審査判定」を行う際の重要な項目となりますので、全ての対象者について、記載を行って下さい。
- 排尿・排便の記載のポイントは4点です。 ①排泄の方法 ②回数 ③失敗の有無と介護 ④昼夜の違い
問題がない場合は「問題なし」と記入して下さい。 ♪
- 適切な介助の方法で選択をする場合には「選択の根拠」「介護の手間」「頻度」の3点を記載してください。
- 「日頃の状況」とは、「日頃の能力」を聞いており、「日頃の生活の状況」ではありませんのでご注意ください。
- 「軽度者」と「重度者」については、2群5群を中心に、生活状況が伝わる様に記載をして下さい。
- 3－4短期記憶については、調査直前にしていたことを聞き取りで確認する項目ですが、確認が難しく、調査員テキスト記載の3点確認を行う場合は、使用するものも含めてテキスト通りの方法で実施して下さい。

チェック及び数字の記入方法

- この調査票は、コンピュータで読み取りを行いません。そのため、あらかじめ決められた方法に従って記入しないと読み取りが行えません。下記の記入例を参考に、ていねいに記入してください。

